ユニット4：マハーバーラタの概要：マハーバーラタの主要登場人物の紹介とあらすじ（updated 2012-11-28）

マハーバーラタ Mahābhārata.「大いなるバラタ族（の戦いの物語）」の意．全18編約10万詩節．伝説ではヴィヤーサ（Vyāsa）作．前10世紀頃に北インドのクルクシェートラでおきたバラタ族の親族間の争いを主題とする物語が吟遊詩人によって伝えられるうちに，多くの民間説話が取り込まれて増広され，4世紀頃に現在の形が成立した．10世紀末頃に散文体のパルワ作品として古ジャワ語に翻訳された。

1. 登場人物（登場順と血縁関係による）

バラタ Bharata	北インドの伝説上の王．バラタ族の始祖．
ドリタラーシュトラ Dhṛtarāṣṭra	クル族の王．ハスティナープラに都を置く．パーンドゥの異母兄．盲目．カウラヴァ（クルの子孫）100兄弟の父．
パーンドゥ Pāṇḍu	クル族の王．ドリタラーシュトラの異母弟．パーンダヴァ（パーンドゥの子）5兄弟の父．
クンティーKuntī	パーンドゥの第1妃．パーンダヴァ第1-3子の母．
マードリーMādrī	パーンドゥの第2妃．パーンダヴァ第4-5子の母．
ユディシュティラ Yudhiṣṭhira	パーンダヴァ第1子．クンティーの子．別名ダルマプトラ．
ビーマ Bhīma	パーンダヴァ第2子．クンティーの子．別名ヴァーユプトラ．
アルジュナ Arjuna	パーンダヴァ第3子．クンティーの子．インドラ神の子．
ナクラ Nakula	パーンダヴァ第4子．マードリーの子．アシュヴィン双神の子．
サハデーヴァ Sahadeva	パーンダヴァ第5子．マードリーの子．アシュヴィン双神の子．
ドラウパディーDraupadī	パーンダヴァ5王子の妻．パンチャーラ国の王ドルパダの娘．
ガトートカチャ Ghaṭotkaca	ビーマと羅刹女ヒディムバー（Hiḍimbā）の子．
アビマニュ Abhimanyu	アルジュナとスバドラーの子．
パリークシット Parīkṣit	アビマニュの子．
クリシュナ Kṛṣṇa	ヤーダヴァ族のドヴァーラカー国の王．パーンダヴァの味方．ヴィシュヌ神の転生．
スバドラーSubhadrā	アルジュナの妻．アビマニュの母．クリシュナの妹．
シカンディン Śikhaṇḍin	ドルパダの息子．カーシー国の王の娘アンバーの転生．
ガーンダーリーGāndharī	ドリタラーシュトラの妃．カウラヴァ100兄弟の母．
ドゥルヨーダナ Duryodhana	カウラヴァ100兄弟の第1子．
ドゥフシャーサナ Duḥśāsana	カウラヴァ100兄弟の一人。
カルナ Karṇa	クンティーと太陽神の子．カウラヴァの味方．
シャリヤ Śalya	マドラ国の王子．マードリーの兄．カウラヴァの味方．
ドローナ Droṇa	クル族の軍師．カウラヴァの味方．
アシュヴァッターマン Aśvatthāman	ドローナの息子．
ビーシュマ Bhīṣma	クル族の長老．カウラヴァの味方．

2. あらすじ

第1編「初編」

盲目のドリタラーシュトラは弟パーンドゥに王位を譲ったが，弟の死後王位に就き，パーンダヴァ5王子を引き取ってカウラヴァ100王子と共に養育する．学術・武芸においてパーンダヴァはカウラヴァに優り，両者の間に対立が芽生える（アルジュナとカルナ）．王が後継者としてユディシュティラを指名したので，妬んだドゥルヨーダナは陰謀によって森の中でパーンダヴァを焼き殺そうとするが危機を脱する（ビーマと羅刹女ヒディムバー）．パーンダヴァがパンチャーラ国にいたとき，王女ドラウパディーの婿選びの競技でアルジュナが優勝し，彼女を5王子共通の妻とする（アルジュナの12年間の放浪）．ドリタラーシュトラはパーンダヴァを呼び戻し，国を2分して，ハスティナープラをカウラヴァに与え，パーンダヴァには新しくインドラプラスタを都として与えた．

第2編「集会編」

インドラプラスタの繁栄を妬むカウラヴァはユディシティラをサイコロ博打に招く．1回目の勝負でユディシティラは全財産・領土・家族を失い，妻ドラウパディーは侮辱を受けるが，ドリタラーシュトラの取りなしで和解する．しかし，敗者は12年間に森に隠れ住み，13年目は誰にも知られず暮らして初めて帰還できるという条件でおこなった2回目の勝負にもユディシュティラは負けてしまう．

第3編「森林編」

パーンダヴァは森林地帯をさまよい，聖者たちと対話したり様々できごとを経験する．その間，アルジュナは神々から武器を手に入れるために山中で瞑想にはいり，シヴァ神から恩寵を得る（アルジュナの結婚）．

第4編「ヴィラータ編」

追放13年目にパーンダヴァはマツヤ国のヴィラータ王のもとに身分を偽って暮らす．このときマツヤ国を攻めてきたカウラヴァを撃退するのに協力し，13年目が過ぎてパーンダヴァが正体を明かしたとき，ヴィラータ王は彼らと同盟を結び，娘をアビマニュの妻として与える．

第5編「戦争準備編」

パーンダヴァはカウラヴァから王位を取り返す決意を固め，両陣営で戦闘の準備が進められる．いずれにも親戚であるクリシュナは，無防備の自分か軍隊かを両陣営に選ばせ，アルジュナはクリシュナを選ぶ．最後の和平交渉が決裂しクルクシェートラで18日間におよぶ戦闘が始まる．

第6編「ビーシュマ編」

戦いに躊躇するアルジュナに御者になったクリシュナが真理を解き明かす（バガヴァッドギーター）．カウラヴァの大将ビーシュマがシカンディンによって致命傷を負う．

第7編「ドローナ編」

ビーシュマに代わったカウラヴァの大将ドローナが殺害される．

第8編「カルナ編」

ドローナに代わったカウラヴァの大将カルナが殺害される．

第9編「シャリヤ編」

カルナに代わったカウラヴァの大将シャリヤが殺害され，ドゥルヨーダナも致命傷を負う．

第10編「夜襲編」

18日目の夜，ドローナの息子アシュヴァッターマンはパーンダヴァ陣営を夜襲する．ドゥルヨーダナの死．

第11編「女性編」

子を失ったガーンダーリーが嘆く．

第12編「平和編」

ユディシュティラがハスティナープラ国の王として即位する．

第13編「教訓編」

死の床にあるビーシュマが王としての義務などについて教訓を語り，死去する．

第14編「馬祀祭編」

ユディシュティラが馬祀祭をおこなう．

第15編「アーシュラマ編」

ドリタラーシュトラ，ガーンダーリー，クンティーは森に隠棲する．森の大火で死去する．

第16編「棍棒戦編」

ヤーダヴァ族は仙人の呪いによって棍棒による内戦の末に絶滅する．クリシュナも自らの使命の終わりを自覚し事故死する．

第17編「旅立ち編」

ユディシュティラは王位をパリークシットに譲り，他のパーンダヴァ兄弟と妻ドラウパディーとともにメール山頂のインドラ神の天界をめざしてヒマーラヤ山へ旅立つ．一匹の犬がつきしたがう．途中，ドラウパディー，サハデーヴァ，ナクラ，アルジュナ，ビーマが脱落する．

第18編「昇天編」

天国と地獄を見たユディシュティラは最終的に他のパーンダヴァ兄弟とドラウパディーとともに天国へ入ることを許される．パーンダヴァの昇天によってドヴァーパラ・ユガは終わり、カリ・ユガが始まる。

参考文献

1. 青山亨 1994「叙事詩、年代記、予言: 古典ジャワ文学にみられる伝統的歴史観」『東南アジア研究』32 (1): 34-65.
2. 石井米雄・他編 1991『インドネシアの事典』京都: 同朋舎．とくに「ジャワ文学」「マハバラタ」「バラタユダ」「ワヤン」の項目．
3. 上村勝彦 2002-2003『マハーバーラタ』第1-7巻（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房．
4. ――― 2003『インド神話―マハーバーラタの神々』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房．
5. 沖田瑞穂 2008『マハーバーラタの神話学』弘文堂．
6. カリエール，ジャン・クロード・著，笈田勝弘・木下長宏・訳 1987『マハーバーラタ』東京：白水社．
7. 菅沼晃 1985『インド神話伝説辞典』東京：東京堂出版．
8. ドゥ・ヨング 1986『インド文化研究史論集 欧米のマハーバーラタと仏教の研究』、塚本啓祥訳、平楽寺書店．
9. 中村了昭 1998『マハーバーラタの哲学：解脱法品原典解明』（上・下）、平楽寺書店．
10. 奈良毅・他・訳 1983『マハーバーラタ』全3巻（レグルス文庫）東京：第三文明社．
11. 前川輝光 2006『マハーバーラタの世界』めこん．
12. 松本亮 1982『ワヤン人形図鑑』東京: めこん．
13. ――― 1996『マハーバーラタの陰に』増補版．東京:八幡山書房．
14. ――― 1994『ワヤンを楽しむ』東京: めこん．
15. 山際素男（訳）．1991-98.『マハーバーラタ』全9巻．東京：三一書房．
16. ――― 2002『マハーバーラタ：インド千夜一夜物語』（光文社新書）東京：光文社．
17. ――― 2006『踊るマハーバーラタ：愚かで愛しい物語』（光文社新書）東京：光文社．

マハーバーラタ登場人物の名前(ver.1.2)

サンスクリット	説明	ジャワ語
バラタ Bharata	北インドの伝説上の王. バラタ族の始祖.	ブロト Barata
ドリタラーシュトラ Dhṛtarāṣṭra	クル族の王. ハスティナープラに都を置く. パーンドゥの異母兄. 盲目. カウラヴァ(クルの子孫)100 兄弟の父.	ダストロストロ Dastarastra
パーンドゥ Pāṇḍu	クル族の王. ドリタラーシュトラの異母弟. パーンダヴァ(パーンドゥの子)5 兄弟の父.	パンドゥ Pandu. 別名パンドゥデウォノト Pandudewanata.
クンティーKuntī	パーンドゥの第 1 妃. パーンダヴァ第 1-3 子の母.	クンティ Kunti. パンダワ第 1-3 子の母.
マードリーMādrī	パーンドゥの第 2 妃. パーンダヴァ第 4-5 子の母.	マドリム Madrim. パンダワ第 4-5 子の母.
ユディシュティラ Yudhiṣṭhira	パーンダヴァ第 1 子. クンティーの子. 別名ダルマプトラ.	ユディスティロ Yudistira
ビーマ Bhīma	パーンダヴァ第 2 子. クンティーの子. 別名ヴァーユプトラ.	ビモ Bima. 別名ブロトセノ Bratasena、ウルクドロ Werkudara.
アルジュナ Arjuna	パーンダヴァ第 3 子. クンティーの子. インドラ神の子.	アルジュノ Arjua. 別名プルマディ Permadi、ジャノコ Janaka、ダナンジョヨ Dananjaya、チプトニン Ciptaning
ナクラ Nakula	パーンダヴァ第 4 子. マードリーの子. アシュヴィン双神の子.	ナクロ Nakula
サハデーヴァ Sahadeva	パーンダヴァ第 5 子. マードリーの子. アシュヴィン双神の子.	サデウォ Sadewa
ドラウパディーDraupadī	パーンダヴァ 5 王子の妻.	ドゥルパディ Drupadi
ガトートカチャ Ghaṭotkaca	ビーマと羅刹の子.	ガトゥトコチョ Gatutkaca
アビマニュ Abhimanyu	アルジュナとスバドラーの子.	アビマニュ Abimanyu. アルジュノとスムボドロの子.
パリークシット Parīkṣit	アビマンニュの子.	パリクシト parikesit. アビマニュとウタリ Utari の子.
クリシュナ Kṛṣṇa	ヤーダヴァ族のドヴァーラカー国の王. パーンダヴァの味方. ヴィシュヌ神の転生.	クレスノ Kresna
スバドラーSubhadrā	アルジュナの妻. アビマンニュの母. クリシュナの妹.	スムボドロ Sumbadra. アルジュノの第1夫人. クレスノの妹. 別名ロロ・イルン Rara Ireng.
ガーンダーリーGāndharī	ドリタラーシュトラの妃. カウラヴァ 100 兄弟の母.	グンダリ Gendari. コラワ 100 人の母.
ドゥルヨーダナ Duryodhana	カウラヴァ 100 兄弟の第 1 子.	ドゥルユドノ Duryudana. 別名クルパティ Kurupati、ジョコピトノ Jakapitana、スユドノ Suyudana.
ドゥフシャーサナ Duḥśāsana	カウラヴァ 100 兄弟の一人.	ドゥルソソノ Dursasana
カルナ Karṇa	クンティーと太陽神の子. カウラヴァの味方.	カルノ Karna. 別名スルヨプトロ.
シャリヤ Śalya	マドラ国の王子. マードリーの兄. カウラヴァの味方.	サルヨ Salya. モンドロコ国の王子. マドリムの兄.
ドローナ Droṇa	クル族の軍師. カウラヴァの味方.	ドゥルナ Durna. 別名 Kumbayana.
ビーシュマ Bhīṣma	クル族の長老. カウラヴァの味方.	ビスモ Bisma

この他に、現代ジャワ語版では、プノカワンと総称されるアルジュノの 4 人の召使いスマル Semar、ガレン Gareng、ペトル Petruk、バゴン Bagong が登場.

松本亮 1982 『ワヤン人形図鑑』東京: めこん.

R. Rio Sudibyoprono. 1991. *Ensiklopedi Wayang Purwa*. Jakarta: Balai Pustaka.